

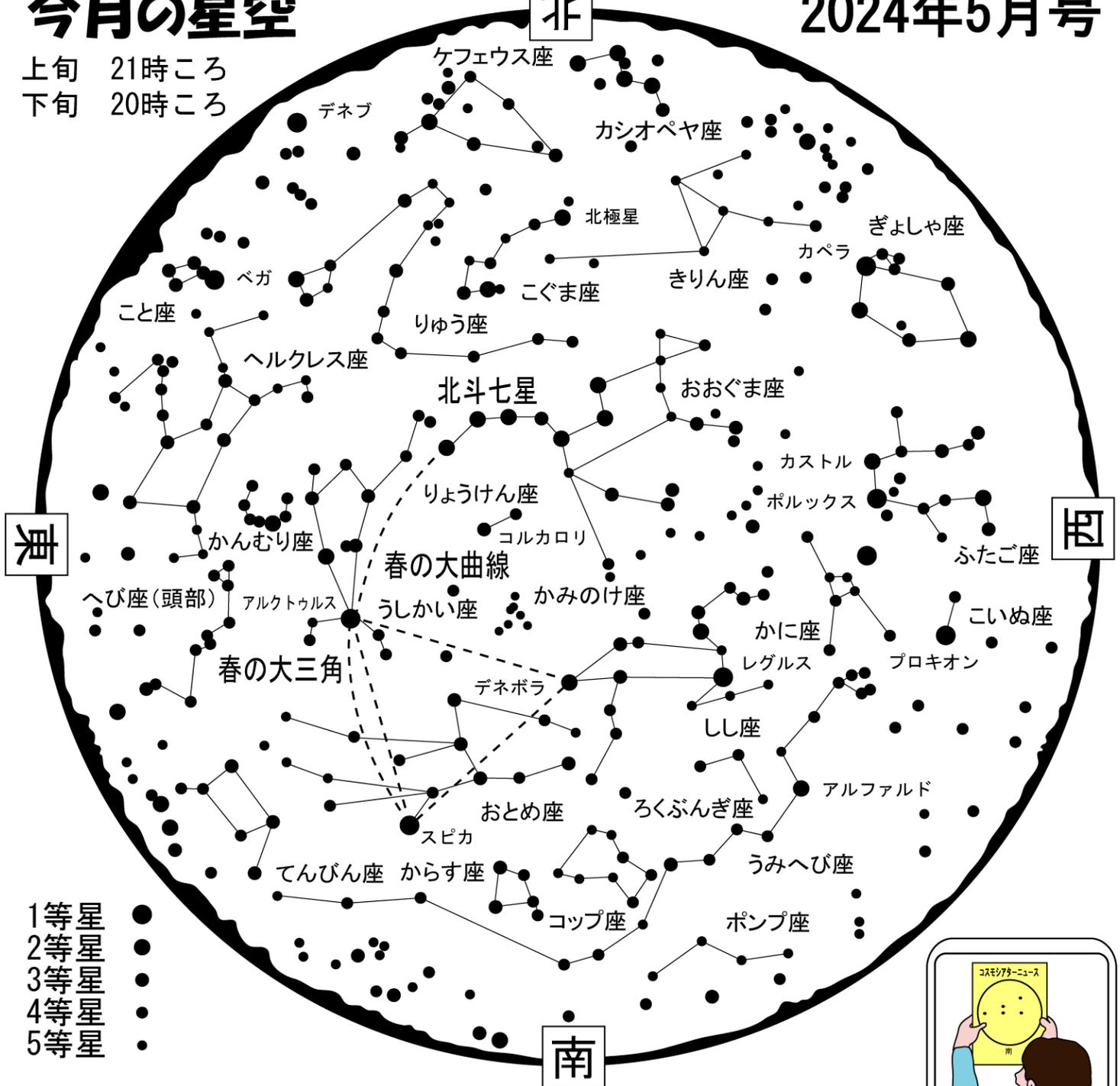
コスモシアターニュース

今月の星空

北

2024年5月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ



- 1等星 ●●
- 2等星 ●●●
- 3等星 ●●●●
- 4等星 ●●●●●
- 5等星 ●●●●●●

惑星の動き

水星：明け方、東のたいへん低い空に見えます。ただし、肉眼では見つけにくいでしょう。
金星：見かけ上太陽に近く、肉眼で見つけるのは難しいでしょう。
火星：明け方、東の低い空に見えます。明るさは1等星です。5日の朝、月と並んで見えます。
木星：見かけ上太陽に近く、肉眼で見つけるのは難しいでしょう。
土星：明け方、東の低い空に見えます。明るさは1等星です。4日の朝、月と並んで見えます。

今月の月の満ち欠け

下弦：1日(水) 新月：8日(水) 上弦：15日(水) 満月：23日(木) 下弦：31日(金)



自分の向いている方向を下にして、見てください

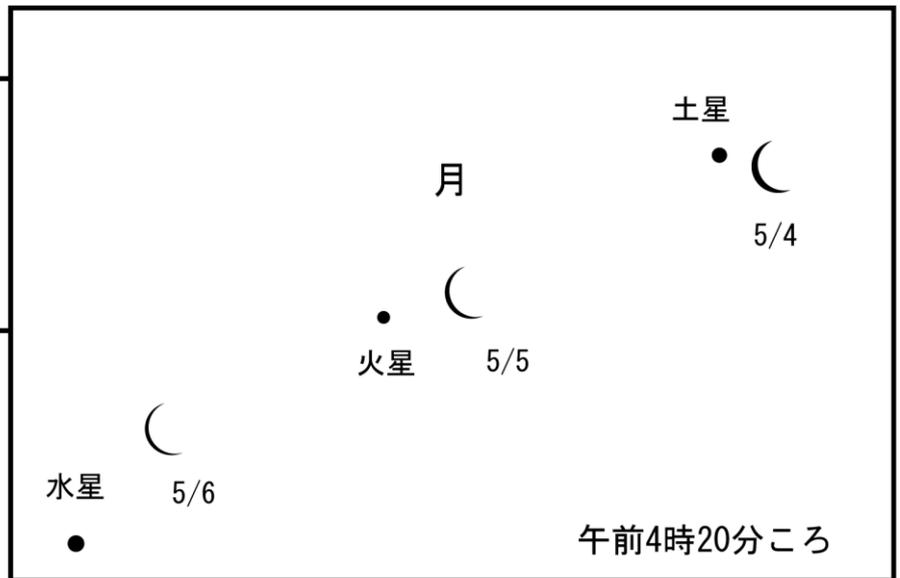
4日(土)～6日(月)、明け方東の空で、月と惑星が並んで輝く

4日(土)の明け方の午前4時すぎ、東寄りの低い空に、細い月が見えています。時間がたつと、月が高く見やすくなりますが、空が明るくなっていきます。このため、月と星が一度に見やすいのが、午前4時20分ころになります。このころは、少し朝焼けが始まっていますが、土星などの惑星は十分見える明るさです。

そんな時間、4日は月のすぐ左側に土星、5日(日)は、月のすぐ左側に火星が見えるでしょう。土星と火星は、1等星ですので、天気さえよければ、肉眼でもすぐに見えます。

そして、6日(月)には、月の高さが低くなり、火星から左下へ離れていきます。この日、月の左下には水星があるのですが、高さが極端に低く、双眼鏡などを使わないと見えません。

今回の接近は、東の空のかなり低いところで起こります。できるだけ見晴らしがよいところで、早起きをしてご覧ください。また、5倍程度の小さな双眼鏡などがあれば、より簡単に見ることができるでしょう。



6日(月)、明け方、みずがめ座流星群が極大

6日(月)明け方に、みずがめ座流星群が、極大(一番多くなる)となります。みずがめ座流星群は、特に東の空に多く現れます。放射点は、真夜中すぎに昇り、明け方にかけてだんだん高くなります。よって、放射点の高くなる明け方前の午前2時ころから午前4時ころに、流星を見ることができます。なお、今年は月明りがなく、いい条件です。ただ、実際見られる流星は少なく、極大のころ、松山市内で1時間あたり数個程度でしょう。また、街明かりのない条件が良い所では、1時間に5～10個くらいの流星が見えるかもしれません。なお、この前の、4日(土)と5日(日)の明け方も、同じくらいの流星が見られます。4日から6日の明け方の晴れた時に、見るといいでしょう。そして、流星を見た後は、空が明るくなるまで、月と惑星の接近をお楽しみください。

春の星を見つけよう

春の夜空には、「春の大三角」と呼ばれる大きな三角の形に並ぶ星があります。その中で最も明るい星が、「うしかい座」の「アルクトゥルス」です。

「アルクトゥルス」は、21時ころですと、東の空高く見えるいちばん明るい星です。この星を目印に、南の空を眺めると、右下に「おとめ座」の「スピカ」、右側に「しし座」の「デネボラ」が見つかります。そして、これらの星を図のように結ぶと、「春の大三角」が完成します。

右の図は、21時ころ南の空を見た時の様子です。左が東、右が西になります。またちょうど頭の上に見える、「コルカロリ」と「春の大三角」を結ぶと、「春のダイヤモンド」が完成します。この他、北の空には、「北斗七星」が輝いています。この先の星の並びを結んで南側に延びていくカーブを、「春の大曲線」と呼びます。この途中には、「アルクトゥルス」、「スピカ」が輝いていることになります。なお、この二つの星は、春の夜空で明るく目につく星で、春の夫婦星と呼ばれています。いっぽう、「デネボラ」や「コルカロリ」は、少し暗めの星なので、分かりにくいこともあります。

